

学会記事

日本きのこ学会 第26回大会報告（奈良）

8月7日、8日の2日間、奈良市の近畿大学農学部にて日本きのこ学会第26回大会が開催されました。近畿大学農学部における大会の開催は2004年に寺下隆夫先生が大会委員長として開催されて以来、約20年ぶりの開催となりました。8月上旬のお盆前の夏真ただ中に最終的に170名を超える参加者をお迎えすることができ、実行委員一同大変うれしく思っております。

今回は、会場内での移動をなるべく少なくできるようにレイアウトでの開催を計画し、一般講演はすべてポスター発表、学生の方にはそのうえで口頭による「学生優秀発表」を行っていただく形式とさせていただきます。72件の一般講演と20件の学生優秀発表のエントリーがあり、会場では活発な討論がされておりました。今回はポスター賞、および学生優秀発表賞の審査は参加者全員に配布された投票用紙を用いた投票で行うという初めての試みでした。人気投票的な側面もあったかとは思いますが、最終的に3件のポスター賞、4名の学生優秀発表賞が選出されました。受賞された方々はおめでとうございます。

7日の夕刻からは2019年の23回大会（武庫川女子大）以来の4年ぶりの懇親会を開催することができました。今回の大会で心がけた会場間の移動時間をできるだけ短くする会場配置と移動前のプログラムをポスターコアタイムとすることにより、比較的長時間通りにプログラムを進行することができ、懇親会もずれ込むことなく開始することができました。今回の趣向としましては懇親会場が開場するまでのわずかな時間に涼をとっていただく目的で、会場入り口付近で氷につけたドリンク類とかき氷の提供をさせていただきました。懇親会場入り口付近のテラス席でドリンク片手に奈良漬けをつまむ情景はキャンプ場でのBBQのような雰囲気もあり、用意したドリンク類もあつという間になくなってしまいました。

近畿大学での開催ということで、大学の特徴を出した近畿大学らしいおもてなしをということで、水産研究所（アー

マリン近大）の魚（タイ、カンパチ、シマアジ、クエタマ）を準備させていただき、近畿大学と幸南食糧の共同研究開発商品である「金賞健康米」と共にお寿司として提供させていただきました。また、附属農場産の「近大マンゴー」もデザートとして提供させていただきました。お酒に関しては鳥取県からきのこのラベルが特徴的な諏訪泉が蔵元の方により紹介・提供されるとともに、附属農場産の酒米を使って醸造した「近大酒」や農学部の学生による実習で商品化された「清酒平群」などをはじめとして奈良県のお酒を中心に提供させていただきました。懇親会におきましても、当日参加を含め100名を超える参加を頂き、盛況のうちに終了することができました。

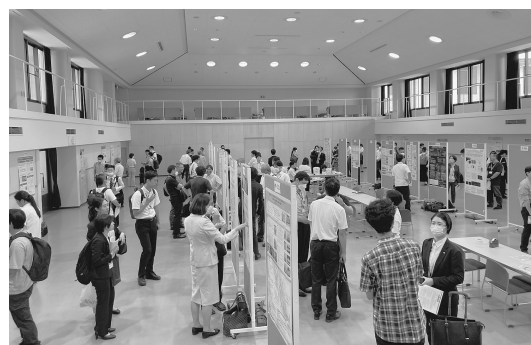
8日の午前は、「きのこ栽培の現状」というテーマで、富山県農林水産総合技術センター森林研究所の佐々木史氏、一正蒲鉾株式会社の川口信久氏、株式会社キノックスの木村栄一氏の3名によるシンポジウムを開催しました。講演終了後は講演をいただいた3名のシンポジストをパネリストとしてパネルディスカッションを行い、きのこ栽培がこれから向かっていくべき将来について活発な意見交換が行われました。

午後は、ポスター発表のコアタイム終了後、奨励賞の授賞式および学生優秀発表賞、ポスター賞の授与が行われ、続く奨励賞を受賞された岩本和子氏（大阪青山大学）の受賞講演をもって大会の全日程を終了いたしました。

大会直前に台風6号が沖縄付近に停滞し、大会開催日に近畿に接近する可能性もございましたが直撃することはない、かえって学会初日の朝に雨が降ったおかげで当日は比較的過ごしやすい気温であったように感じました。しかし、学会最終日の午前中のシンポジウムの間に会場の空調が不調になり皆様には多分なご不便をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。午後からの授賞式と受賞講演は空調の効いた別の部屋で行うトラブルにも見舞われましたがなんとか全行程を終ることができ実行委員一同ほっとしております。



シンポジウムパネルディスカッション



ポスター発表会場

次回第 27 回大会の開催地は鳥取の予定です。リモート開催となった第 24 回大会のリベンジということで、懇親会で霜村典宏先生に意気込みを語っていただきました。第 27 回大会の盛会を心よりお祈り申し上げます。

なお、日本きのこ学会第 26 回大会（奈良）におきまして、奨励賞、ポスター賞および学生優秀発表賞を受賞された演題は以下のとおりです。おめでとうございます。

W-1 奨励賞

大阪青山大学 岩本 和子 氏

「食用きのこにおける γ -アミノ酪酸 (GABA) 生成に関与する酵素に関する研究」

ポスター賞

P-06c ニオウシメジのプランター栽培方法の改良：○関根直樹，金田一美有，小林久泰 [茨城県林技セ，茨城県庁]

P-35b 次世代シーケンサーを利用した QTL-seq 法によるシイタケの耐病性に関する遺伝領域の特定：○小野晶子，木下晃彦，坂本裕一，宮崎和弘，秋庭満輝 [森林総研，岩手生工研]

P-62b エノキタケの発酵能を利用した肉醬の開発：○福田史織，鮫島由香，竹本尚未，鈴木詩穂，沢柳幸弘，松井徳光 [武庫女大・食栄，羽衣国際大・食栄，武庫女大・栄科研，武庫女大院・食栄，(有) 沢柳きのこ園]

学生優秀発表賞

A-04 尾釜 遼：雷撃の音圧と周波数成分によるシイタケ子実体の発生促進効果 [日本工大院]

A-09 藤田隼也：PsPCP 遺伝子の破壊が *Pleurotus salmoneostramineus* 子実体の発色に与える影響 [近畿大・農]

B-07 金正育也：培養マツタケ菌糸の加工食品としての可能性 [近畿大・農]

B-08 隠田美咲：アミスギタケの子実体形成に及ぼすアミノ酸の添加効果 [阪公大・農]



各賞受賞者



懇親会

最後になりましたが、この度の日本きのこ学会第 26 回大会にご協力いただきました皆様、ご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
(大会委員長 近畿大学農学部 白坂憲章)